

# 姫路城城下町跡

— 姫路城跡第381次発掘調査報告書 —



2018

姫路市教育委員会

## 1. 調査に至る経緯・事業の経過

姫路市白銀町 54 番において、共同住宅の建設工事が計画された(図 1・2)。計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地である姫路城城下町跡(県遺跡番号 020169)に該当することから、平成 29 年 3 月 3 日に確認調査(調査番号: 20160535)を実施したところ、井戸(SE02)の一部が検出された。協議の結果、工事範囲の 171 m<sup>2</sup>を対象に本発掘調査を実施することになり、平成 29 年 12 月 1 日に「姫路市白銀町 54 番の開発に伴う埋蔵文化財(姫路城城下町跡)発掘調査委託契約書」を締結して事業を開始した(調査番号: 20170384)。現地調査に要した期間は、平成 29 年 12 月 5 日から 12 月 16 日であった。現地調査終了後、整理作業及び発掘調査報告書の作成を行い、本書の刊行をもって事業を完了した。

## 2. 姫路城城下町跡における調査地の位置

調査地は姫路城の外曲輪に位置し、中ノ門(大手門)から南に 250m離れた地点にあたる(図 1)。調査地に西接する街路は中ノ門から飾磨門に通じていた。城下町絵図では調査地の東側約 1/3 は社寺地、西端から中央部の約 2/3 は町屋として描かれている。このうち社寺地は、第 2 次本多氏時代(1682～1702)の絵図に「虎屋」とみえ、その後、酒井氏時代(1749 年以降)には「浄恩寺」と記されている。浄恩寺は山号を虎谷山といい、元和 4 年(1618)に西本願寺御坊亀山本徳寺六世准専が開基したもので、後に御坊免許を受け、虎屋(谷)御坊と称されたという(註)。昭和 40 年(1965)頃まで存続したが、その後廃寺になったとされる。町名は、17 世紀中期の絵図では「ぬし(塗師)屋町」、17 世紀後期では「上白かね町」、18 世紀中頃以降は「白銀町」と記載される。

## 3. 調査の成果

調査地は西端部及び北東端部の一部を除いて現地表(T.P. 11.9m 付近)から約 1.2mの深さまで建物基礎による攪乱を受けていた。西端部では現地表から約 30 cm 下(a-a' 断面 4 層・T.P. 11.7m)、及び 40 cm 下(7 層)で生活面とみられる三和土を確認した。それより下層は、にぶい黄橙色シルト質粘土(11 層・20～25 cm)、城下町形成以前の耕土層とみられるにぶい黄褐色シルト質粘土(12 層・約 10 cm)、灰黄褐色粘質土(13 層・約 15 cm)、黄褐色粘質土(14 層・20～30 cm)等を経て、明黄褐色シルト質細砂(地山・T.P. 10.7～10.9m)に至る。13・14 層は須恵器・土師器の細片を若干含んでいた。北東端部では T.P. 11.5m で上面幅 30 cm、厚さ 25 cm の礎石を 1 石検出した(写真 3)。礎石は城下町形成以前の耕土層とみられるにぶい黄褐色シルト質粘土(f-f' 断面 11 層)を切って据え付けられており、近世以降のものと考えられる。その下層では明黄褐色シルト質粘土(地山・T.P. 11.2m)を検出した。地山の検出レベルの比較から、旧地形は東から西に下降していたとみられる。遺構は井戸 4 基(SE01～04)、土坑 3 基(SK01～03)を検出した。

SE01 には鉄管が打ち込まれており、近現代に入って井戸を埋める際に空気抜きとして挿し込まれたものとみられる。SE02 は石組井戸で、検出面から底まで 2.0m を測る。SE03 は石組井戸で下半部にのみ石組が残っていた。検出面から底まで 2.0m を測る。SE04 は素掘りの井戸で、検出面から底まで 1.3m を測る。SK01 は東半が調査区外に広がるため形状は不明である。検出面から底まで 0.6m を測る。なお、調査地が街路に面していることから、街路関連遺構の有無を確認するため西端部を断ち割ったが、三和土(図 4-3 層)及び浅い土坑(SK02・SK03)が西側の調査区外に伸びており、街路に伴う遺構は確認されなかった。

遺物は、SE02 から煉瓦、SE03 からガラス瓶が出土しており、これらの井戸は近現代まで使用されていたと考えられる。SE04 からは少量ながら側面に切り込みのある棧瓦、柿釉を施した土師器等が出土しており、江戸時代後期に埋められた可能性もある。SK01 からは右巴文及び左巴文をもつコビキ B の軒丸瓦、染付磁器等が出土したが、遺物は少量であり詳しい時期は不明である。

## 4. 総括

以上のとおり調査区内では、後世の攪乱が著しく、井戸などの深い遺構を検出したに留まった。井戸は 4 基確認したが、このうち近世の遺物が出土したものは 1 基(SE04)であった。ただし、これ以外の井戸も構築時期は近世に遡る可能性がある。絵図に記載された寺院に関連する明確な遺構は確認されなかった。西半部は街路に面して町屋の建物が存在した可能性が高く、西端部で確認された三和土は土間の一部とみられる。三和土は 2 面確認されたことから、現地表を含めると近世から現代までに少なくとも 3 回の地盤の嵩上げがあったと考えられる。

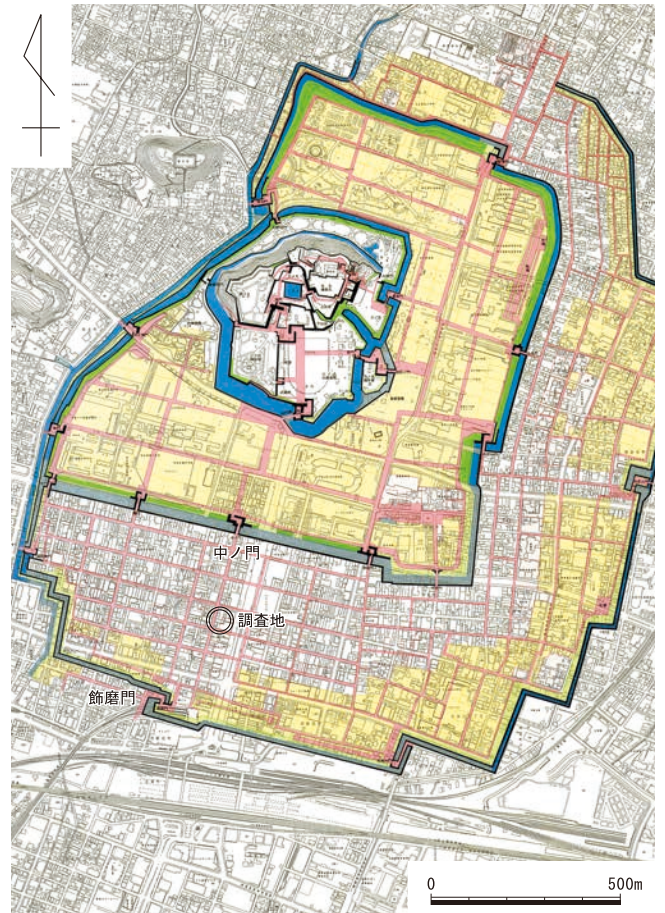


図1 調査地位置図 (S=1:20,000)

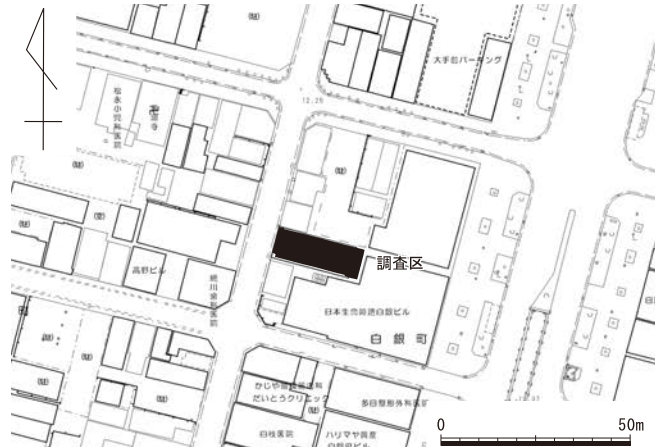
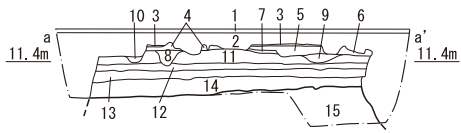


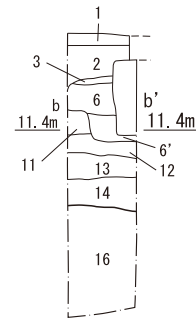
図2 調査区位置図 (S=1:2,000)

註 姫路市教育委員会『姫路城下古道境界』2017年による。



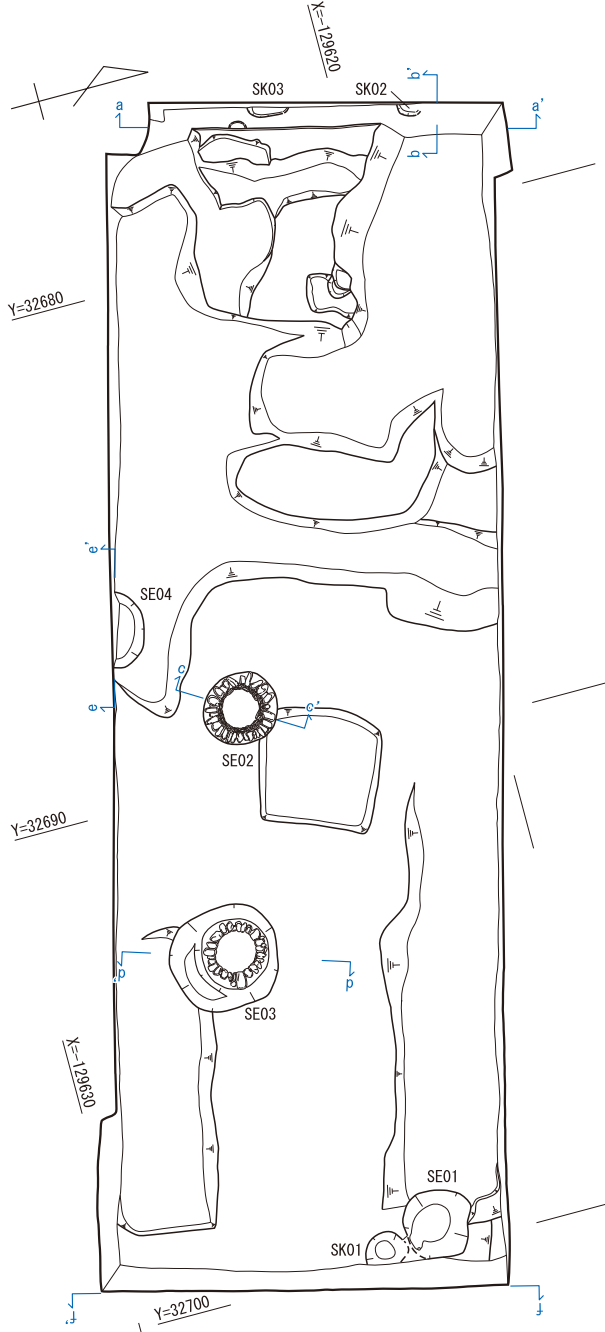


1. 碎石
2. 盛土
3. 三和土
4. 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト質粘土 漆喰多く含む。炭含む
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色土 極細砂～細砂 炭・焼土・貝殻含む
6. 10YR6/2 灰黄褐色シルト質粘土 炭・漆喰含む
- 6'. 7.5YR4/4 褐色粘質土
7. 10YR5/1 褐色粘質土 炭・焼土含む 三和土
8. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト質粘土 径 2 cm 大円礫・炭含む
9. 10YR4/1 褐灰色シルト質粘土 径 3 cm 大円礫・貝殻混じる
10. 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト質粘土 径 3 cm 大円礫・細砂含む
11. 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト質粘土 地山ブロック含む
12. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質粘土 (城下町形成以前の耕土層)
13. 10YR5/2 灰黄褐色粘質土 (遺物包含層)
14. 2.5Y5/4 黄褐色粘質土 拳大円礫・風化礫含む (遺物包含層)
15. 10YR7/8 明黄褐色シルト質細砂 拳大円礫混じる (地山)

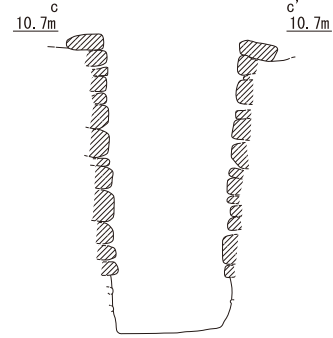


※土層名はa-a' と共通する

図4 b-b' 断面図 (S=1 : 50) ・写真



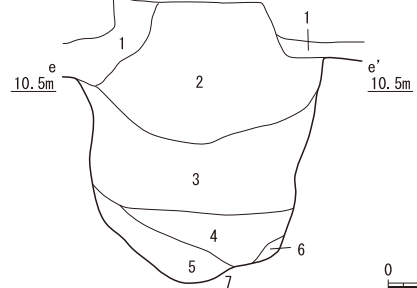
SE02



SE03

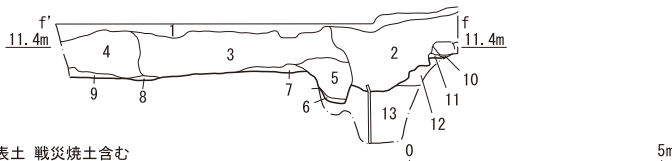


SE04



1. 攪乱
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 極細砂～細砂 炭・焼土含む。径 4 cm 大円礫少量含む
3. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 炭・径 4 cm 大円礫少量含む
4. 10YR5/2 灰黄褐色シルト質粘土
5. 10YR5/1 褐色砂礫 小礫～拳大円礫主体
6. 10YR4/1 褐灰色シルト質粘土
7. 10YR4/4 褐色砂礫 拳大円礫含む (地山)

図5 SE02～SE04断面図 (S=1 : 50)



1. 表土 戦災焼土含む
2. コークス・煉瓦含む
3. 7.5YR 黒褐色土 極細砂～細砂 締め固めた跡が層状に残る
4. 10YR4/2 灰黄褐色土 極細砂～細砂 炭・漆喰・モルタル・貝殻含む
5. 10YR3/1 黒褐色土 極細砂～細砂 拳大円礫・瓦含む (SK01 埋土)
6. 2.5Y6/6 明黄褐色シルト質粘土 (SK01 埋土)
7. 7.5YR4/1 褐灰色土 極細砂～細砂 径 2 cm 大の円礫多く含む
8. 10YR4/1 褐灰色土 極細砂～細砂
9. 10YR4/1 褐灰色土 極細砂～細砂 瓦・漆喰含む
10. 10YR4/1 褐灰色シルト質粘土 径 3 cm 大円礫含む
11. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質粘土 (城下町形成以前の耕土層)
12. 10YR6/8 明黄褐色シルト質粘土 (以下地山)
13. 砂礫 (ラミナ)

図3 遺構平面図・断面図 (S=1 : 150)



写真1 SE04 (北から)



写真3 調査区東壁（西から）※左端が礎石



写真4 調査区西壁（東から）



写真5 SE02（西から）



写真6 SE03（西から）

## 報告書抄録

ふりがな	ひめじじょうじょうかまちあと							
書名	姫路城城下町跡							
シリーズ名	姫路市埋蔵文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第70集							
編著者名	南 憲和							
編集機関	姫路市埋蔵文化財センター							
所在地	〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元 414番地1				TEL (079) 252-3950			
発行年月日	平成30年（2018年）3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積	調査 原因
		市町村	遺跡番号					
ひめじじょうじょうかまちあと 姫路城城下町跡	ひょうごけんひめじし 兵庫県姫路市 しろがねちょう 白銀町54番地	28201	020169	34° 49' 51"	134° 41' 26"	2017.12.5 ～ 2017.12.16	171㎡	共同住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			遺跡調査番号	
姫路城城下町跡	集落跡	近世	井戸	土師器・軒丸瓦・染付磁器			20170384	

## 例言

1. 本書は、姫路市白銀町54番で実施した姫路城城下町跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、株式会社ビックアイランドからの委託を受け、姫路市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査は、姫路市埋蔵文化財センターの南憲和が担当した。
4. 本書の編集・執筆は南が行った。
5. 調査に関する写真・図版等の調査記録、出土品は姫路市埋蔵文化財センターで保管している。
6. 標高値は、東京湾平均海面（T.P.）を基準としている。方位は座標北を示す。
7. 土層図の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修『新版標準土色帳』に準拠した。
8. 遺構は、原則的にアルファベットと数字を組み合わせた番号で表記した。略称は、SE- 井戸・SK- 土坑をあらわす。

姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第70集

## 姫路城城下町跡-姫路城跡第381次発掘調査報告書-

編 集 姫路市埋蔵文化財センター  
〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元 414番地1  
発 行 姫路市教育委員会  
〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目1番地  
発 行 日 平成30年（2018年）3月31日  
印刷・製本 内海印刷株式会社  
〒670-0808 兵庫県姫路市白国5-8-4